

## 第83回 世界の人とふれあいタイム



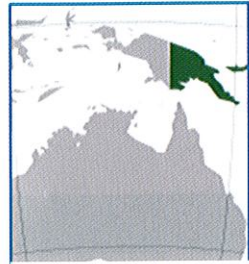
パプアニューギニア独立国  
Independent State of  
Papua New Guinea  
Mr. Samson Yabon

実施日：7月16日(日)  
会場：八王子市学園都市センター

ゲストのサムソン・ヤボンさんは、2003年4月～2005年3月まで神戸大学で研究生として学び、帰国後パプアニューギニア(PNG)の大学で教えました。その後2007年4月に再来日し、早稲田大学院で「日本とパプアニューギニアおよび南アジア太平洋地域の国際交流」の研究を行い、2009年3月に卒業しました。帰国後パプアニューギニアの大学の講師として早稲田大学で研究したことを学生に講義しました。2016年11月に日本のPNG大使館に参事官として着任し、2017年3月に臨時代理大使に就任しました。



ヤボン臨時代理大使



緑の領域が、パプアニューギニア

パプアニューギニアの面積は、日本の約1.2倍(462,840 km<sup>2</sup>)。人口は760万人です。820以上の言語があり世界の言語の約12%を占めています。イギリスの植民地でしたが、1975年に独立しました。公用語は英語、トク・ピジン、ヒリモツ語です。

パプアニューギニアと日本の関係は、1985年に中曽根元首相が訪問し、2014年7月には安倍首相が訪問しています。現在は、エネルギー部門(LNG液化天然ガス)と、ホテルなど観光部門への二つの重要な戦略的投資事業があります。



安倍首相と  
ピーター・オニール首相

教育面においては人材育成促進の観点から、JICAと文部科学省から協力を得ています。



首都：ポートモレスビー

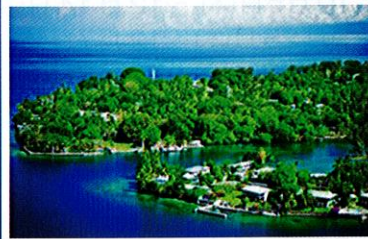
ニューギニア航空は、直行便(成田/ポートモレスビー)を週2回(水曜日と土曜日)運行しています。所要時間は約6時間25分で、日本との時差は1時間です。

パプアニューギニアの観光占める日本人ツアーの割合は約10%です。

現在は第二次世界大戦の戦死者(約127,000人)の遺骨収集(約76,800人)も行われて、日本からパプアニューギニアへの観光ビザの発給代金は無料です。

スピーチの後は、パプアニューギニアを紹介するビデオを鑑賞しました。手つかずの大自然と多様な民族の伝統文化が大きな魅力です。

緑のフィヨルドとクリスタルブルーの海と微笑みに出会える「トゥフィ」は太古から変わらない自然風景です。



青いビスマーク海を臨む「マダン」はマリンスポーツのメッカ、カラフルでドラマチックな海中世界を堪能できます。



標高4,509mの「ウィルヘルム山」は世界の登山愛好家の間では有名な山です。晴れた日の山頂からの眺めは雄大です。

「マウントハーゲン」では、部族の躍動感に溢れる“ゴロカショー”が鑑賞できます。



バードウォッチング愛好家のパラダイス! 貴重な「極楽鳥」はパプアニューギニアだけで見られます。



2015年5月には福島で第7回太平洋・島サミット(PALM)が開催(3年ごと)され、17か国の首脳などが参加しました。またアジア太平洋経済協力会議(APEC 2018)が初めてパプアニューギニアで開催されます。

Q&A タイムでは、「駐日パプアニューギニア大使館の役割は?」、「国旗の意味は?」、「選挙制度は?」など活発な意見交換ができました。アンケートでも、「ていねいな日本語の説明が良かった」、「今後の発展が期待できて羨ましい」など、大変好評でした。

(世界の人とふれあいタイム委員長 生山龍哉)